

# 鐘 楼

伊勢崎市立北小学校学校運営協議会だより 第13号(本年度3号)

令和3年3月3日 伊勢崎市立北小学校学校運営協議会

北小学校ホームページアドレス: <http://www.isesaki-school.ed.jp/kitasyo/>

## ☆本年度の北小学校学校運営協議会を振り返って

過日、2月5日(金)に、本年度最後となる協議会を、北小学校と併設する赤石楽舎会議室で行いました。議題は、主に3点、①北小学校の本年度の教育活動について②本年度の学校評価アンケート(保護者・児童・教職員)の結果について③学校運営協議会と学校との協働の取組についてでした。

①の報告の中では、コロナ禍で苦勞をされている先生方の取組、そのことを理解し、協力している保護者や地域の皆様の様子、そして、何よりも児童の皆さんが、学校生活をしっかり送っていることでした。

②では、コロナ禍で大きく生活様式や学校生活が変化中、児童の心の面でのサポートや家庭学習などが話題となり、改めて新型コロナウイルス感染症の拡大が与える影響の大きさを感じました。

③の取組として「スマイルカレンダー」を本年度も作成(右上写真)しましたので、4月には各家庭、北地区各戸へ配布いたします。また、本年度は、北小学校で取り組んでいる安全教育を各家庭にも広げられるよう「安全リーフレット」を作成(右下写真)いたしました。交通・自然災害・不審者の3つの対策スローガンを1枚のリーフレットにまとめ、6年生児童に絵を募集し作成いたしました。是非、各家庭で活用し、児童そして大切なご家族の安全・安心にお役立ていただければと考えています。

本年度も3回の鐘楼の発行ができました。保護者の皆様の益々のご活躍とご健康を心よりご祈念申し上げます。大変お世話になりました。



## ★委員からの声

### 芝崎 和子 委員(会長) 「今、子どもたちに伝えたいこと」



北小学校は、地域の宝物です。ですから、その学校に通っている児童の皆さんも、地域の宝物です。私は、曲輪町三区に住んでおりますので北小学校に近く、登下校時の児童の皆さんの明るく元気な声を聞けることが、楽しみでもあります。特に、登下校時に笑顔で挨拶をしてくれた時は、自分の孫を見ているようで、とても嬉しくなります。このような思いは、北小学校区の住民も同じだと思います。登下校時に見守りをしている高齢者の中には、皆さんの大先輩にあたる人や、かつてPTAの役員さんを務めてくれた方々など、皆さんをいつも応援している人です。また、手をつなぐ育成会という形で皆さんの活動を応援しています。今、新型コロナウイルスの感染が拡大し、不安な毎日が続いています。地域のおじいちゃん・おばあちゃん、皆さんをいつでも見守っています。安心して学校生活を楽しんでください。

### 小池 千春 委員(副会長) 「新しい年を迎え思うこと」



2021年が始まり、新型コロナウイルス感染症が流行り始めて一年が経ちました。2020年はこの未知なるウイルス感染におびえ何かと制限のある一年になってしまいました。2021年の目標は皆さん決まっていますか? 去年は家族との時間が増え、自分と向き合う時間も増えました。普段母親をしたり、仕事をしたり、一生懸命やっていたつもりです。でも、自分と向き合う時間が増えた時「私は何をやりたいのだろうか?」と疑問に思いました。社会と寸断されたこの時期、コロナは今後も終息には時間がかかりそうです。そこはコントロールできない範囲です。

メディアなどの情報など溢れるほどあるのですが、日々、どのような情報を選んで自身に入れるかで、今の自分を作り出しています。望んでいる物を手にいれているようで、そうじゃないものもあると、私は思っています。最近の私は「いいな、こうありたいな」といろいろと頭に浮かんだ時に実現できるようメモをするようになりました。少しでもその目標に近づきたい、やれることを一つでも起こすようにしたいからです。もちろんできないこともたくさんあります。行動を起こしたときに「私にもできた!」と、小さな満足感があります。一度しかない人生を「あれやりたかった!」って後悔しないように過ごすためです。まだまだやり始めたばかりですが、この先続けていけるよう頑張りたいです。自分の幸せ、家族の幸せ、みんなの幸せが優しくて自由に生きられるためのコツなのかな?と感じております。

2021年の私の目標は、「しなやかに強く・笑顔・健康」です。みなさまも素敵な一年を・・・



### 浅野 正史 委員 「今、子どもたちに伝えたいこと」

今、世の中は、教育環境においてはあまり良い状況とはいえません。それでも先生方は、みなさんに工夫しながら教えてくれています。そしてみなさんも、それを一生懸命吸収しようとしています。でも、今、教わったことは今絶対にすべてを身につけなければいけないわけではありません。だからといって今を大事にしなくてもいいわけではありません。

あとで前向きに振り返るためにも、今しっかりと学んだり、いろいろなことを感じたり、よい時間の過ごし方をしてください。私達大人も精一杯の愛情でみなさんを見守っています。



### 新井 恵子 委員 「今だから、子どもたちに伝えたいこと」

皆さんの普段の生活で、学校で勉強したり友達と遊んだり、それが当たり前だと思っていましたよね。それが今、学校が休みになってしまったり、友達との遊びも制限されたり、想像もしていなかったような状況になってしまいました。

この大変な状況の中、皆さんは何を感じましたか？当たり前だと思っていたことのありがたさを実感しているのではないかと思います。そして、自分に関わってくれた人たちに対して、感謝を感じているのではありませんか。それは、家族や学校の先生や友達、病院の先生やスーパーの人、本当に様々な方々が皆さんの日々の生活を支えてくれたということです。

今、気が付いた感謝の気持ちを、これから先も忘れずに生かしていきましょう。また、こんな時だからこそ、今自分がやるべきことや出来ることを考えて行動して行ってください。泣いても笑っても、時間は同じように過ぎていきます。だったら、みんなの明日の笑顔のために、意味のある時間を過ごして欲しいと思っています。たとえ小さなことであっても、あなたの思いやりや努力は、必ず誰かの助けになっています。



### 平岡 さつき 委員 「いま子どもたちに伝えたいこと」

感動は伝わる、といますので、私が感動したことを書いてみることにしました。

「鬼滅の刃」世代の子どもたちに届けば嬉しいです。『世界がもし100人の村だったら』（池田香代子著、C.ダグラス・ラミス翻訳、2001年）、2020年には6版が出ています。初版本が出たころ私は、自分の授業でこの本を用いて学生の皆さんと一緒に世界に思いをはせて、自分に何が出来るかを考えました。でも今はすっかり自分の授業では使わなくなりました。私の大学では毎年今頃に、教職をめざす課程を修了する4年生に向けて講演会が行われます。そして、毎年、この本を用いたメッセージを聴く機会があります。毎年聴いているメッセージが今年はとても心に響きました。今自分がここに生きているということ。そして、まず自分の身近な人や地域（地球）を愛して小さな一歩を踏み出せば、まだ間に合う、という希望のもてるメッセージだからだと思います。

上記の本にふれてみましょう。世界の人口は約77億人。もしそれを100人の村に縮めるとどうなるでしょう。「自由な人は52人、自分の信じているところに従って話したり行動できなくなったりする人、あるいはそのために牢に入れられたり殺されたりされようとしているが48人となるそうです。30人は十分に食べ、その内、15人は食べ過ぎ体重過多、20人は栄養失調でその内1人は餓死しそうです。50人は食物が一定して食べられず、常におなかをすかしている。68人は綺麗な空気を吸って生きていて、38人は有害な空気を吸って生きているそうです。」

いま何かに傷つき辛いことがあったとしても視野を世界に広げましょう。自分を大切にしましょう。そして共に生きている身近な人を大切に思えるといいですね。この本のメッセージは、次のように続いています。「あなたは、深々と歌ってください。のびやかに踊ってください。心を込めて生きてください。たとえあなたが、傷ついていても傷ついたことなどないかのように。愛してください。まずあなたが愛してください。あなた自身と、人がこの村に生きてあるということを。もしもたくさんのわたしたちが、この村を愛することを知ったなら、まだ間に合います。人々を引き裂いている非道な力からこの村を救えます。きっと。」

